

大阪で被災地から
学びます

身の回りの“減災”に普段から心がけましょう

地域での助け合いを
考える



東日本大震災から3年。大震災を経験された方々からは「いつ、どこでも天災や災害は起こるから、少しでも被害を少なくするために、普段から備えておいて欲しい」とお聞きします。パルコプでは、組合員会館など事務所での避難訓練にとりくみ、また組合員さんの活動でも「防災」をテーマに東日本大震災後から2013年年末までの間で、のべ33地域、約570人が参加してとりくんでこられました。

皆さんもこの機会に備えませんか。

←寝屋川西地域活動委員会・阿倍野防災センター見学・2012.12月
消火栓の使い方や簡単な応急手当、緊急電話のかけ方などを学びました。

利用している施設の
避難ルートも確認



パル城東組合員会館・パルちゃん
広場すくすくの避難訓練の様子
2012.12月

“バスタオルの防災頭巾”の作り方

2ページをご覧ください



手作りして、包んだり
カバーをかけてクッ
ションがわりに置いてお
くと安心
ですね。

普段から避難場所や
備蓄の確認

ご自宅や学校、職場
の避難ルートやイザ
という時の備蓄など
を話し合いましょ



枚方さだ地域活動委員会「災害時の備え学習会」2013.9月



NO.48

(NPO)遠野まごころ
ネットに常駐するパル
コプボランティア事
務局・林さんより



東日本大震災から丸3年になりました。近いうちに南海トラフ巨大地震の発生が予測されています。今の時代、様々な情報が入手できますが、私自身当事者意識を持って受け止めているだろうかと思えることが多いです。自ら津波の難から逃げ、避難所運営の中心メンバーとして経験された、陸前高田市の語り部・釘子さんは「過去の災害を、自分ごとと捉えるために、現場 現実を見てもらうことも一つだと思う。だから、目的は、観光でも、美味しいものを食べにでも、色いろな形でこれまでの被災地に足を運んで欲しいです」と。改めて、神戸や淡路島の記録館を訪ねる機会もつくりたいと思います。

防災・減災を考えた場合、優先すべき公共事業やエネルギー供給の転換などは、公助の役割、一方で自分のいのちは自分で守る、自助、そしてその両者をつなぎ、普段のくらしの中で培う、互助（隣近所のつながり、町内会など自主防災組織などの役割があると思います。その中で協同組合の学びあい、助けあう役割を改めて考えていきたいものです。

遠野まごころネット

被災者に寄り添い、
絆をつなげる支援活動を